

## 1. ごみ排出（収集）量の変化

## (1) 経年変化

		家庭ごみ有料化 H16年10月～					分別区分一部変更 H20年10月～			
		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
分別 区分別	可燃	34,857	33,676	27,265	26,626	25,819	27,026	28,984	29,623	
	不燃	9,721	11,546	6,797	6,869	6,682	5,048	3,591	3,660	
	資源	818	864	901	901	867	815	828	869	
	危険	0	20	47	49	50	51	56	67	
	資源（集団）	6,272	7,779	9,002	9,315	9,121	8,798	8,378	8,200	
	計	51,668	53,885	44,012	43,760	42,539	41,738	41,837	42,419	

		単位：トン								
		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
排出源 区分別	家庭系	39,573	42,338	32,282	32,996	32,484	31,782	31,693	32,074	
	事業系	11,837	11,441	11,448	10,685	9,964	9,872	10,067	10,279	
	環境清掃等	258	106	282	79	91	84	77	66	
	計	51,668	53,885	44,012	43,760	42,539	41,738	41,837	42,419	

## 2. ごみの分別区分、収集方式・体制

## (1) 家庭ごみ

## ①分別区分（分別の手引き 参照）

可燃	台所のごみ、紙類、プラスチック類（薄い・軟らかいもの）等
不燃	金属類、木類、プラスチック類（厚い・かたまりのもの）等
資源	ペットボトル、びん、かん、紙パック、白色トレイ
危険	スプレー缶、乾電池、蛍光灯、ガスライター等
大型	家具・寝具、厨房・暖房器具、スポーツ用品等

## ②収集方式・体制

ごみステーション方式

6,087箇所

運搬先 可燃・不燃

環境クリーンセンター及び最終処分場  
環境クリーンセンター（ガス化熔融方式、破碎）  
最終処分場（供用期間 H16～H30）

資源

リサイクルセンター（破碎、圧縮、梱包）  
びん・缶・ペットボトル・白色トレイの処理  
リサイクルルートへ

危険

環境事務所ストックヤード（保管）  
電池・蛍光灯（北見市の業者へ）  
ガスカセット・スプレー缶（市内の業者へ）

大型

環境クリーンセンター及び最終処分場

収集回数・収集車数

	収集回数	収集車数
可燃	2回/週	14台
不燃	2回/月	2台
資源・危険	2回/月	3台
大型	随時	2台
農村地区	2回/月	1台

(2) 事業ごみ

①分別区分

可燃	環境クリーンセンターに運ばれる事業ごみの分別は、家庭ごみに準じた区分
不燃	

②収集方式・体制

- ・許可業者（一般廃棄物収集・運搬業）に委託するか、搬入許可を得て自己搬入
- ・市内事業者から許可業者へ
- ・収集回数等は、業種、排出規模等により様々

# ごみ処理施設「環境クリーンセンター」

## 焼却方式・ガス化溶融方式の特徴

処理方式	種類（形式）	原理・特徴	主な生成物	実績
焼却	ストーカ式	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみを 850℃以上の高温に加熱し、ごみ中の水分を蒸発させ、可燃分を焼却する。</li> <li>別途、焼却灰や飛灰の処理を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼却灰</li> <li>飛灰</li> </ul>	多数
	流動床式			
ガス化溶融	シャフト式	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみを 400℃～500℃程度で加熱し、発生した可燃性ガスとカーボン（炭）に熱分解し、これを 1,300℃以上で溶融することによりスラグを生成する。</li> <li>形式により 1 段階処理方式（乾燥からガス化、溶融までを一体化で行う）と、2 段階処理方式（一度ガス化させてから、次段階で溶融を行う）がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スラグ</li> <li>回収金属</li> <li>飛灰</li> </ul>	近年急速に増加
	流動床式			
	キルン式			
	ガス化改質式			

\*スラグは、路床材、路盤材、盛土 などに再利用される。

